

[平成 21 年度設置]

計画の区分：大学院の設置

埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科

設置に係る設置計画履行状況報告書

埼玉県

平成 21 年 5 月 1 日現在

作成担当者

担当部局(課)名 教務・学生担当

職名・氏名 担当部長 ^{マシムラ} 増村 ^{ノブオ} 信雄

電話番号 048-971-0500

(夜間) 048-971-0500

F A X 048-973-4807

e-mail kyomu@spu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は認可申請時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「 大学大学院 ……」と記入してください。

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「 大学」
- ・学部の設置の場合：「 大学 学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「 大学 学部 学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「 短期大学 学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「 大学大学院 研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「 大学 学部 学科(通信教育課程)」

目次

	ページ
1 調査対象大学院等の概要等	1
2 授業科目の概要	4
3 施設・設備の整備状況, 経費	9
4 既設大学等の状況	10
5 教員組織の状況	11
6 留意事項に対する履行状況等	20
7 その他全般的事項	21

< 参考資料 >

資料 1 埼玉県立大学大学院学位規程

資料 2 平成 21 年度埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科学生募集要項

資料 3 シラバス (抜粋)
看護学演習
リハビリテーション学演習
健康福祉科学演習
保健医療福祉概論

資料 4 教育開発支援本部に関する要項

資料 5 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

大学院等設置に係る設置計画履行状況報告書

1 調査対象大学院等の概要等

(1) 設置者

埼玉県

(2) 大学名

埼玉県立大学大学院

(3) 大学の位置

〒343-8540
埼玉県越谷市三野宮820番地

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
理事長			
学長	(サトウ ススム) 佐藤 進 (平成19年4月1日)		
研究科長	(オカモト ジュンコ) 岡本 順子 (平成21年4月1日)		

(注) 『(3) 大学の位置』は、申請学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

『(4) 管理運営組織』の「変更状況」欄は、変更があった場合のみ記入し、併せて「備考」欄に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例)平成19年度に報告済の内容 (19)

平成21年度に報告する内容 (21)

「留意事項報告書」の場合は、タイトルを修正してください。

(5) 調査対象研究科等の名称，定員，入学者の状況等

- (注) 1 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等，定員を定めている組織ごとに記入してください。
 2 様式は，平成18年度開設の場合（平成21年度までの4年間）ですが，開設年度に合わせて作成してください。（修業年限が3年以下の場合には欄を削除し，5年以上の場合には，欄を設けてください。）
 3 定員を変更した場合は，備考欄に変更前の人数，変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。

(5) - 調査対象研究科等の名称，定員

調査対象研究科等の名称（学位）	認可時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 修士（看護学） 修士（リハビリテーション学） 修士（健康福祉科学）	年 2	人 20	人 40	保健医療福祉学部

(注) 「備考」欄に基礎となる学部等の名称を記入してください。

(5) - 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平均入学定員超過率	備考
A 入学定員		(-) 20	() 20	()	1.30	
志願者数		(41) 46	()	()		
受験者数		(39) 44	()	()		
合格者数		(24) 26	()	()		
B 入学者数		(24) 26	()	()		
入学定員超過率 B / A		(-) 1.30	()	()		

- (注) 1 () 内には，社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「 - 」を記入してください。
 2 「平均入学定員超過率」欄には，開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については，小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで記入し，平均入学定員超過率も同様の方法としてください。

(5) - 調査対象研究科等の在学者の状況

学年	報告年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	備考
1年次		[-] 26	[]	[]	
2年次		[]	[]	[]	
3年次		/	[]	[]	
計		[-] 26	[]	[]	

(注) 1 [] 内には，留学生の状況について内数で記入してください。

(5) - 調査対象研究科等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a / b)
平成 2 1 年度	計 [0] 0	計 [0] 26	[0%] 0%
	うち平成 2 1 年度入学者 0人	うち平成 2 1 年度 26人	
	(主な退学理由)		
平成 2 2 年度	計 []	計 []	[%] %
	うち平成 2 1 年度入学者 人	うち平成 2 1 年度 人	
	うち平成 2 2 年度入学者 人	うち平成 2 2 年度 人	
	(主な退学理由)		
平成 2 3 年度	計 []	計 []	[%] %
	うち平成 2 1 年度入学者 人	うち平成 2 1 年度 人	
	うち平成 2 2 年度入学者 人	うち平成 2 2 年度 人	
	うち平成 2 3 年度入学者 人	うち平成 2 3 年度 人	
(主な退学理由)			

(注) 1 []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

2 「入学者数に対する退学者数等の割合」欄は、各対象年度における退学者等の数を開設年度から当該年度までの入学者(累積)で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。

3 「主な理由」欄は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。

・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(例) 今年度完成年度を迎える大学

一般的には、平成21年度欄については、入学後1か月程度しか経過していないため、退学者数は「0」や少数であることが想定されます。また、平成18,19年度は原則として昨年度の報告書と同様の記載となります。

2 授業科目の概要

< 保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 >

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通必修科目	I P W論（専門職連携実践論）	1・2前	2			3						兼1 認可時の留意事項に基づき兼任教員を追加（21）
	保健医療福祉概論	1・2前	2			1		2				
	保健医療福祉研究法特論	1・2前	2			4						
保健医療福祉学 共通選択科目 包括科目	生命と倫理	1・2前		2		2						兼1 兼1
	医療福祉安全管理学	1・2前		2								
	医療福祉管理特論	1・2前		2								
	国際保健医療福祉論	1・2前		2		1						
	保健医療福祉とリハビリテーション	1・2前		2		3						
保健医療福祉学 共通選択科目 支持科目	高次脳機能と病態制御	1・2前		2		2						
	予防医学特論	1・2前		2		2						
	応用人体構造機能論	1・2前		2		4						
専門科目 看護基盤 看護科学 専修	看護理論	1・2前後		2		1						兼1 兼1 兼1
	看護政策	1・2前		2								
	看護学教育論	1・2前		2		1						
	看護情報管理論	1・2前		2		1						
	看護管理システム論	1・2前後		2		1						
	基礎看護技術・看護工学	1・2前		2			1					

専門 健康 福祉 科学 演習 健康 福祉 科学 特別 研究	健康福祉科学演習	1・2後	2	11	2					
	健康福祉科学特別研究	1～2通	10	11	2					10単位必修

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
3	47		50	[]	[]	[]	[]	変更なし

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	生活環境支援系理学療法学特論	2	1・2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため
2	健康運動実践学特論	2	1・2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため
3	福祉工学論	2	1・2前	専門	選択	履修希望者がいなかったため

(4) 廃止科目

該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講となった科目は、履修希望者がいなかった科目であり、選択科目のため学生の履修への影響はない。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0.06$$

- (注) 1 「(1) 授業科目表」は、設置認可申請書の様式第2号(その2)に準じて作成してください。
- 2 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え直し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
 なお、昨年度の報告において朱書きで見え消した部分については、黒字で記載してください。
- 3 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の提出日等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成 年 月 提出予定」と記入してください。)
- 4 「(2) 授業科目数」は、未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に差し引き数を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: 1)
- 5 「(3) 未開講科目」は、配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- 6 「(4) 廃止科目」は、認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- 7 「(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」欄には、授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
- 8 「(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	86,199㎡	㎡	㎡	86,199㎡				
	運動場用地	15,892㎡	㎡	㎡	15,892㎡				
	小 計	102,091㎡	㎡	㎡	102,091㎡				
	そ の 他	174㎡	㎡	㎡	174㎡				
	合 計	102,265㎡	㎡	㎡	102,265㎡				
(2) 校 舎	専 用	46,185㎡	㎡	㎡	46,185㎡	大学全体			
	(46,185㎡)	(㎡)	(㎡)	(46,185㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	32室	28室	67室	3室 (補助職員 -人)	0室 (補助職員 -人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		申請大学院全体			
	保健医療福祉学研究科			50 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体 整備実績による(21)	
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	保健医療福祉学 研究科	102,514〔11,209〕 (96,989〔11,193〕) (97,514〔11,159〕)	450〔130〕 (417〔100〕) (453〔130〕)	1,484〔1,484〕 1,100〔1,100〕 (1,484〔1,484〕) (1,063〔1,063〕)	1544 1505 (1,544) (1,505)	8,993 8,740 (8,993) (8,740)	361 (361)		
	計	102,514〔11,209〕 (96,989〔11,193〕) (97,514〔11,159〕)	450〔130〕 (417〔100〕) (453〔130〕)	1,484〔1,484〕 1,100〔1,100〕 (1,484〔1,484〕) (1,063〔1,063〕)	1544 1505 (1,544) (1,505)	8,993 8,740 (8,993) (8,740)	361 (361)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	2,783㎡		202席		200,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	2,242㎡		テ ニ ス コ ー ト グ ラ ウ ン ド						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体 実績及び必要経費の計上による(21) 図書購入費には電子ジャーナルを含む
		教員1人当り研究費等	498千円 365千円	498千円 365千円	図書購入費	34,454千円	34,525千円 31,454千円	34,525千円 31,454千円	
		共同研究費等	29,450千円 27,850千円	29,450千円 27,850千円	設備購入費	35,857千円	19,054千円 19,195千円	19,054千円 19,195千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		833千円	621千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			授業料、入学金、入学検定料、その他特定財源により維持運営し、不足する部分については、埼玉県的一般財源を充当する。						

- (注) 1 認可時の計画を設置認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
2 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
3 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を備考欄に記入してください。
4 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消しした部分については、黒字で記載してください。
5 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	埼玉県立大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
保健医療福祉学部						1.03	H 1 1	埼玉県越谷市三野宮 8 2 0 番地	健康開発学科は18年度新設
看護学科	4	120	3年次40	560	学士(看護学)	1.01			
理学療法学科	4	40		160	学士(理学療法)	1.07			
作業療法学科	4	40		160	学士(作業療法)	1.03			
社会福祉学科	4	70	3年次5	290	学士(社会福祉)	1.01			
健康開発学科	4	100		460		1.03			
健康行動科学専攻	(4)	(30)	3年次30	(180)	学士(健康科学)	1.04			
検査技術科学専攻	(4)	(40)		(160)	学士(健康科学)	1.03			
口腔保健科学専攻	(4)	(30)		(120)	学士(健康科学)	1.02			

(注) 1 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、すでに設置している大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、状況を記入してください。

(大学院及び短期大学の専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

2 認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。

3 「定員超過率」欄には、各修業年限に相当する期間(学年進行中の場合は、設置後経過した年数分)における入学定員超過率の平均を記入してください。

入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

なお、学生募集停止中の学部等については、「-」を記入するとともに、「備考」欄に「平成 年度から学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

< 保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 >

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授 (研究科長)	岡本順子	平成21年4月	高次脳機能と病態制御 応用人体構造機能論						
専	教授	大塚真理子	平成21年4月	I P W論(専門職連携実践論) 老年看護援助論 看護学演習 看護学特別研究						
専	教授	萱場一則	平成21年4月	I P W論(専門職連携実践論) 健康福祉科学特論 健康福祉科学演習 健康福祉科学特別研究						
専	教授	原 和彦	平成21年4月	I P W論(専門職連携実践論) 生活環境支援系理学療法学特論 リハビリテーション学演習 リハビリテーション学特別研究						
専	教授	野川とも江	平成21年4月	保健医療福祉概論 地域ケア支援論 看護学演習 看護学特別研究						
専	教授	鈴木真理子	平成21年4月	地域福祉計画論 健康福祉科学演習 健康福祉科学特別研究						

専	教授	三浦宜彦	平成21年4月	保健医療福祉 研究法特論 健康福祉評価 論 健康福祉科学 演習 健康福祉科学 特別研究						
専	教授	添田啓子	平成21年4月	保健医療福祉 研究法特論 看護理論 小児看護援助 論 看護学演習 看護学特別研 究						
専	教授	高柳清美	平成21年4月	保健医療福祉 研究法特論 リハビリテー ション基盤実 践学特論 障害基礎解析 学特論 リハビリテー ション学演習 リハビリテー ション学特別 研究						
専	教授	久保田富夫	平成21年4月	保健医療福祉 研究法特論 生活環境支援 系作業療法学 特論 リハビリテー ション学演習 リハビリテー ション学特別 研究						
専	教授	五條しおり	平成21年4月	生命と倫理 人間の生と性						
専	教授	細川 武	平成21年4月	生命と倫理 高次脳機能と 病態制御 応用人体構造 機能論						
専	教授	川口典男	平成21年4月	国際保健医療 福祉論 健康福祉科学 演習 健康福祉科学 特別研究						

専	教授	坂田悍教	平成21年4月	応用人体構造 機能論 保健医療福祉 とリハビリ テーション						
専	教授	大橋秀行	平成21年4月	保健医療福祉 とリハビリ テーション リハビリテー ション学特別 研究						
専	教授	朝日雅也	平成21年4月	保健医療福祉 とリハビリ テーション 健康福祉科学 演習 健康福祉科学 特別研究						
専	教授	小牧宏一	平成21年4月	予防医科学特 論 理論病態情報 論 健康福祉科学 演習 健康福祉科学 特別研究						
専	教授	室橋郁生	平成21年4月	予防医科学特 論 健康福祉科学 演習 健康福祉科学 特別研究						
専	教授	五味敏昭	平成21年4月	応用人体構造 機能論						
専	教授	河津芳子	平成21年4月	看護学教育論						

専	教授	中崎啓子	平成21年4月	看護情報管理論 看護学演習 看護学特別研究						
専	教授	川畑貴美子	平成21年4月	看護管理システム論 成人看護援助論 看護学演習 看護学特別研究						
専	教授	西脇由枝	平成21年4月	小児看護援助論 看護学特別研究						
専	教授	鈴木幸子	平成21年4月	リプロダクティブヘルス論 看護学演習 看護学特別研究						
専	教授	伊藤俊一	平成21年4月	リハビリテーション基盤実践学特論 障害予防学特論 リハビリテーション学演習 リハビリテーション学特別研究						
専	教授	星文彦	平成21年4月	運動解析学特論 リハビリテーション学演習 リハビリテーション学特別研究						
専	教授	藤縄理	平成21年4月	運動器障害治療学特論 リハビリテーション学演習 リハビリテーション学特別研究						

専	教授	丸岡 弘	平成21年 4月	内部機能障害 治療学特論 リハビリテー ション学演習 リハビリテー ション学特別 研究						
専	教授	中田真由美	平成21年 4月	機能適用支援 系作業療法学 特論 リハビリテー ション学演習 リハビリテー ション学特別 研究						
専	教授	坂井博通	平成21年 4月	健康福祉社会 調査論 健康教育評価 法 健康福祉科学 演習 健康福祉科学 特別研究						
専	教授	星 永	平成21年 4月	健康教育評価 法 健康運動実践 学特論						
専	教授	佐藤雄二	平成21年 4月	健康運動実践 学特論 健康福祉科学 演習 健康福祉科学 特別研究						
専	教授	福田素生	平成21年 4月	福祉政策論 健康福祉科学 演習 健康福祉科学 特別研究						
専	教授	徳田哲男	平成21年 4月	福祉工学論 健康福祉科学 演習 健康福祉科学 特別研究						

専	准教授	鈴木玲子	平成21年4月	基礎看護技術・看護工学看護学特別研究						
専	准教授	横山恵子	平成21年4月	精神看護援助論 看護学演習 看護学特別研究						
専	准教授	清水洋子	平成21年4月	看護学演習 看護学特別研究						
専	准教授	大月恵理子	平成21年4月	看護学特別研究						
専	准教授	小川豊太	平成21年4月	リハビリテーション基盤実践学特論 リハビリテーション学特別研究						
専	准教授	加藤朋子	平成21年4月	生活環境支援系作業療法学特論 リハビリテーション学演習 リハビリテーション学特別研究						
専	准教授	市村彰英	平成21年4月	健康支援カウンセリング論 健康福祉科学演習 健康福祉科学特別研究						
専	准教授	東 宏行	平成21年4月	健康支援カウンセリング論						
専	准教授	金粕 薫	平成21年4月	ソーシャルワーク特論 健康福祉科学演習 健康福祉科学特別研究						

専	講師	久保田章仁	平成21年4月	保健医療福祉 概論 生活環境支援 系理学療法学 特論 リハビリテー ション学演習 リハビリテー ション学特別 研究						
専	講師	田口孝行	平成21年4月	保健医療福祉 概論 生活環境支援 系理学療法学 特論 リハビリテー ション学演習 リハビリテー ション学特別 研究						
専	講師	金村尚彦	平成21年4月	障害基礎解析 学特論 リハビリテー ション学演習 リハビリテー ション学特別 研究						
専	講師	森山英樹	平成21年4月	障害基礎解析 学特論 リハビリテー ション学演習 リハビリテー ション学特別 研究						
専	講師	西原 賢	平成21年4月	運動解析学特 論 リハビリテー ション学演習 リハビリテー ション学特別 研究						
兼任	講師	橋本迪生	平成21年4月	医療福祉安全 管理学						
兼任	講師	藤井博之	平成21年4月	医療福祉管理 特論						
兼任	講師	小野寺杜紀	平成21年4月	看護理論						

兼任	講師	久常節子	平成21年4月	看護政策						
兼任	講師	新野由子	平成21年4月	看護管理システム論						
					兼任	講師	高橋紘士	平成21年4月	保健医療福祉概論	認可時の留意事項に基づき、兼任教員を補充(21)

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
36	4	40	0	36	4	40	0	変更なし
(36)	(4)	(40)	(0)	[0]	[0]	[0]	[0]	

(3) 専任教員交代の理由

該当なし

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1			
2			
3			

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) 1 「(1) 担当教員表」は、認可申請書の様式第3号(その1)に準じて作成してください。
なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、表題を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- 2 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(21)」を「備考」欄に朱書きしてください。
なお、昨年度の報告において朱書きで見え消した部分については、黒字で記載してください。
(記入例参照)
- 3 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- 4 退職者は「備考」欄に退職年月、理由を記入してください。
- 5 年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」欄には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- 6 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は「後任未定」及び今後の採用計画を「備考」欄に記入してください。また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「年 月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「年 月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「年 月変更書提出予定」と記入してください。前判定があり審査が不要となる教員についてはその前判定とその授業科目名称をそれぞれ「備考」欄に()書きで記入してください。(記入例参照)
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」欄に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
- 7 「(2) 教員数」の「認可時の計画」欄には、完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在(就任年月に達していない者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に差し引き数を記入してください。
(記入例：1名減の場合： 1)
- 8 「(3) 専任教員交代の理由」欄には、認可時の計画からの専任教員交代の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
- 9 「(4) 専任教員交代に係る大学の所見」欄には、専任教員交代に係る学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

7 その他全般的事項

< 保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 >

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況，今後の見通しなど
該当なし	

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>平成18年4月1日、教育開発支援本部を設置。 平成21年4月1日、教育開発支援本部に大学院FD企画部会を設置した。 (別添「教育開発支援本部に関する要項」第7条参照)</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>教育開発支援本部会議は月1回開催。大学院FD企画部会も平成21年4月以降、定期的に開催予定。 教育開発支援本部は副学長を本部長とし、教員9名で構成。(21年度：第1回4月13日開催) 大学院FD企画部会は、大学院担当教員7名で構成。(21年度：第1回4月20日開催)</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 教育システムに関するカリキュラムの調査・研究及び改訂企画等・ 教育評価法の調査・研究・ 教授法等教育方法の調査・研究、教職員研修等の企画支援、教材研究支援・ 入学前教育及び卒業後の教育の企画・ その他、支援本部の目的を達成するために必要な活動 <p>実施状況 実施されている取組を全て記載すること。</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ FD研修会・ 教育改善懇談会・ 新任教員研修会・ 授業満足度調査(平成21年度から内容を拡充)・ 教員相互の授業参観(平成21年度から実施)
--

b 実施方法

- ・ F D 研修会
外部講師を招き、全教員を対象に講演又はワークショップ方式で実施。
平成 21 年度からは大学院担当教員を対象とした研修会も開催する。
- ・ 教育改善懇談会
教育課題について分野ごとに報告を行った後、グループに分かれ各課題について教員間で討議を行う。
- ・ 新任教員研修会
新任教員を対象として教育・研究、学生相談、情報システム等について各担当教員から説明を行う。
- ・ 授業満足度調査
開講授業科目について、学生の授業満足度に関するアンケート調査を W E B により実施。
アンケートの集計結果は教員にフィードバックする。
- ・ 教員相互の授業参観
平成 21 年度から段階的に公開授業を拡大していく。また、授業参観した教員に対するアンケート調査を実施する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ F D 研修会
年 4 回程度開催（毎回 60 名程度の教員が参加）
- ・ 教育改善懇談会
年 2 回開催（毎回 50 名程度の教員が参加）
- ・ 新任教員研修会
年 1 回年度当初に開催（新任教員 20 名程度が参加）
- ・ 授業満足度調査
年 2 回全学生を対象に実施。
- ・ 教員相互の授業参観
平成 21 年度から実施。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

F D 研修会の開催により教員の F D に関する意識改革が促進された。また、学生の授業満足度調査の結果は教員にフィードバックされるとともに、教育改善懇談会でも意見交換が行われ、教員はそれらの結果を踏まえて授業改善に取り組んだ。平成 21 年度からは教員相互の授業参観を実施し、参観者のアンケート結果を踏まえて F D 研修会や教育改善懇談会を開催し、より一層の授業改善に向けて取組んでいく。

（3）自己点検・評価等に関する事項

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
（別紙のとおり）

自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成 23 年 3 月 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係機関等に配布
- ・大学ホームページ上に公開予定

認証評価を受ける計画

- ・平成 23 年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受けるべく、学内自己評価委員会で検討中

(4) 情報提供に関する事項

設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成21年4月1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.spu.ac.jp/info.rbz?ik=1&nd=198>)

設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成21年5月)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.spu.ac.jp/info.rbz?ik=1&nd=198>)

- (注) 1 項目は、1～6の項目により記入した事項以外で、認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- 2 記入事項は、原則として、設置認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
- 3 「(3) 自己点検・評価等に関する事項」については、認可時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。また、「A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、積極的な評価を行う場合、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
記入方法は、欄内には(別紙のとおり)とし、A4版1枚程度で作成した別紙を添付してください。
なお、「B 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
- 4 「(4) 情報提供に関する事項」の「 」及び「 」の「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、現在は未公表であり、今後公表を予定している場合は、公表後の取扱いについて記入してください。

埼玉県立大学大学院学位規程

平成 21 年 4 月 1 日

埼玉県立大学規程第 307 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、埼玉県立大学大学院学則第 27 条及び第 28 条の規定に基づき、埼玉県立大学大学院（以下「本学大学院」という。）において、授与する学位の種類、学位論文の審査の方法、その他学位に関し必要な事項を定めるものとする。

(学位)

第 2 条 本学大学院において授与する学位は、修士とする。

(授与の要件)

第 3 条 修士の学位は、本学大学院を修了した者に授与する。

(専修分野の付記)

第 4 条 前条の規定により授与する学位には、次のとおり、専修分野の名称を付記する。

専修の名称	学位の名称	英語表記
看護学専修	修士（看護学）	Master of Nursing
リハビリテーション学専修	修士（リハビリテーション学）	Master of Rehabilitation Science
健康福祉科学専修	修士（健康福祉科学）	Master of Health Science and Social Work

(学位の名称)

第 6 条 本学大学院の学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、「埼玉県立大学大学院」と付記するものとする。

(学位論文の提出要件)

第 7 条 学位論文を提出することのできる者は、既に所定の単位を修得した者または学位論文の審査の終了までに所定の単位を取得することができる見込みのある者で、かつ、必要な研究指導を受けた者とする。

2 前項の研究指導には、研究指導教員の資格を有する教員（以下「研究指導教員」という。）があたるものとする。

(学位論文)

第 8 条 主論文は 1 編とし、研究科長に提出するものとする。この場合、必要により、参考論文を添付することができる。

2 提出した学位論文は、返納しない。

(学位論文の審査)

第 9 条 学位論文の審査は、研究科委員会で決定した主査 1 名及び副査 2 名で行う。

2 主査は、当該学生の研究指導を担当する教員以外の研究指導教員をもって充てる。

(試験及び学力審査)

第 10 条 主査及び副査は、前条の審査を行うとともに、その論文の内容及び専門領域に関する最終試験（口頭試問）を行う。

(審査結果の報告及び学位授与の議決)

第11条 主査は前2条の審査の結果を研究科委員会に報告する。

2 研究科委員会は、前項の報告及び当該学生の単位取得状況により、合否を審議決定する。

(合格者の報告)

第12条 研究科長は、学位試験に合格した者を合格決定の日から20日以内に、学長に報告しなければならない。

(学位の授与及び学位記の様式)

第13条 学長は、前条の報告に基づき、修士課程の修了を認定し、修了証書・学位記を交付して学位を授与する。

2 修了証書・学位記の様式は、別記様式のとおりとする。

(学位授与の取消し)

第14条 本学大学院において学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又は、その名誉を汚辱する行為があったときは、学長は、研究科委員会の議を経て学位を取り消し、修了証書・学位記を返納させ、かつ、その旨を公表する。

(委任)

第15条 この規程の実施に必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年 4月 1日から施行する。

第 号	年 月 日（和暦）	攻 ○ 専 修 所 定 の 課 程 を 修 め て 本 学 大 学 院 を 修 了 し た こ と を 認 め、 修 士 （ ○ ○ ） の 学 位 を 授 与 す る	修了証書・学位記
			氏 名 年 月 日 生
	埼玉 県 立 大 学 長 氏 名 印		

平成21年度

埼玉県立大学大学院
保健医療福祉学研究科
学生募集要項

【保健医療福祉学専攻】



埼玉県立大学

目 次

I	保健医療福祉学研究科 入学試験募集要項	1
	1 募集人員	1
	2 出願資格	1
	3 選抜方法	2
	4 出願資格審査	3
	5 出願手続	4
	6 出願前相談	6
	7 研究指導に関わる教員の研究テーマ	6
	8 合格発表	8
	9 長期履修制度	8
	10 入学手続	9
	11 入学試験成績の開示	10
	12 その他	10
II	試験会場案内	11
III	出願書類記入上の注意及び記入例	12

*** 下記の出願書類が同封されていることを確認してください。**

出願様式	出願書類
A票	志願票（原票）
B～F票	住所票他
G票	研究計画書
H票	受験票送付用封筒
I票	入学検定料封入用封筒
J票	出願用封筒
K票	出願資格審査申請書

平成21年度埼玉県立大学大学院入試 スケジュール

期間（いずれも平成21年）	内 容	対 象
1月 7日～1月16日	出願資格審査申請	最終学歴が短期大学、高等専門学校、専修学校等の方
1月13日～1月21日	出願前相談受付	出願前相談を希望する方
1月26日（予定）	出願資格審査結果発送	出願資格審査申請者
1月26日まで	身体に障害がある入学志願者の事前相談	身体に障害がある方で、特別な配慮を必要とする方
1月28日～2月 4日	出願期間	入学志願者全員
2月13日（予定）	受験票発送	入学志願者全員
2月22日	入学試験	入学志願者全員
3月 6日	合格発表	入学志願者全員
3月17日～3月18日	入学手続	入学試験合格者

I 保健医療福祉学 入学試験募集要項

1 募集人員

研究科・専攻	専修	学位	募集人員
保健医療福祉学研究科	看護学専修	修士（看護学）	合計20人
保健医療福祉学専攻	リハビリテーション学専修	修士（リハビリテーション学）	
	健康福祉科学専修	修士（健康福祉科学）	

2 出願資格

(1) 一般選抜

本学大学院の一般選抜に出願できる者は、次のいずれかに該当する者とします。

- ア 学校教育法第83条の大学を卒業した者(又は平成21年3月までに卒業見込みの者)
- イ 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者(及び平成21年3月までに授与される見込みの者)
- ウ 外国において、学校教育による16年の課程を修了した者(又は平成21年3月までに修了見込みの者)
- エ 外国が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者(又は平成21年3月までに修了見込みの者)
- オ 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者(又は平成21年3月までに修了見込みの者)
- カ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者(又は平成21年3月までに修了見込みの者)
- キ 文部科学大臣の指定した者(昭和28年2月7日文部省告示第5号)
- ク 本学において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者(平成21年3月31日までに満22歳に達する者に限る)※

※クで出願することを希望する者は事前に出願資格審査を受ける必要があります。(3ページ「4 出願資格審査」をご覧ください。)

(2) 社会人特別選抜

一般選抜の出願資格を満たした上で、平成21年3月31日現在、保健医療福祉の分野において3年以上の実務経験がある方は、社会人特別選抜に出願できます。社会人特別選抜を希望する方は、A票に必要事項を記入の上(特に職歴)、出願書類とともに提出してください。

「3年以上の実務経験」には、非常勤、パート、アルバイト勤務の勤務経験も含まれます。その場合、常勤換算し、通算6,240時間以上の勤務が必要です。

(1日8時間×5日×52週×3年=6,240時間)

なお、社会人特別選抜に該当する方であっても、一般選抜に出願することができます。ただし、出願できるのは、上記(1)及び(2)のいずれか一方であり、出願後に選抜区分を変更することはできませんので、ご注意ください。

3 選抜方法

筆記試験（英語、専門科目）、面接及び提出書類を総合的に判定して行います。

(1) 選抜期日・科目・時間割

平成21年2月22日（日）

選 抜 区 分	試 験 科 目 等	試 験 時 間
全専修共通 (一般選抜・ 社会人特別選抜)	英 語	9:00 ~ 10:00
	専門科目	10:30 ~ 11:50
	面 接	13:00 ~ 17:00

※ 面接終了時間については、受験者数により変更される場合があります。

(2) 試験会場

埼玉県立大学で行います。
(埼玉県越谷市三野宮820番地)

(3) 配点

一般選抜と社会人特別選抜の配点については、次のとおりです。

区 分	試 験 科 目 ・ 配 点				
一般選抜	英語 100点	専門科目 100点	面接 100点	合計	300点
社会人特別選抜	英語 50点	専門科目 100点	面接 150点	合計	300点

(4) 筆記試験の出題内容

試験科目	出 題 内 容
英 語	保健医療福祉に関する英文の内容を問う問題です。
専門科目	保健医療福祉全般に関する問題及び志望専修分野の専門知識を問う問題です。

(5) 受験上の注意

- ア 受験者は、試験開始20分前までに指定された教室に入室し、着席してください。
- イ 英語試験開始後は30分以内の遅刻に限り受験を認めますが、試験時間の延長は行いません。
- ウ 各自の指定された面接開始時に不在であった場合には、欠席したものとして取り扱います。
- エ 英語、専門科目及び面接のいずれか1科目でも受験しなかった者は、入学者選抜の対象から除きます。
- オ 当日は、受験票、HBの黒鉛筆（シャープペンシル可）、消しゴムを必ず持参してください。
- カ 英語及び専門科目試験の際、受験票は試験監督員に明示できるよう机の上に置いてください。
- キ 当日受験票を忘れた者は、速やかに試験実施本部で仮受験票の交付を受けてください。
- ク 受験票は入学手続きの際に必要なため、試験後も大切に保管してください。
- ケ 英語及び専門科目の試験時間中に使用を許可するものは、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、時計（計時機能のみのもの）に限ります。なお、辞書持ち込みは認めません。
- コ 携帯電話、PHS等は、教室に入る前に必ず電源を切っておいてください。これらを時計として使用することはできません。
- サ 試験会場では昼食の販売は行いませんので、各自で準備してください。昼食場所は、試験会場の教室です。ごみは各自で持ち帰ってください。
- シ 試験当日は駐車場を利用できませんので、公共交通機関を利用してください。
- ス その他必要が生じた場合には、受験票送付の際に併せて通知します。

4 出願資格審査

(1) 出願資格審査申請期間

平成21年1月7日(水)～1月16日(金)(最終日の消印有効)

(2) 出願資格審査の申請要件

1ページの2 出願資格 (1)一般選抜のク(社会人特別選抜の場合も同様)での出願を希望する方は、出願資格審査により、出願資格の認定を受ける必要があります。

出願資格審査を申請する場合には、次のいずれかの基準を満たすことが必要です。

ア 保健医療福祉に関する国家資格を有し、かつ保健医療福祉の分野において2年以上の実務経験がある方。

[例] 看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、等
イ 短期大学、高等専門学校または修業年限が2年以上の専修学校の専門課程を卒業し、かつ保健医療福祉の分野において2年以上の実務経験がある方。

(3) 出願資格審査に必要な書類

出願資格審査に必要な書類は次のとおりです。

①出願資格審査申請書(K票。本学ホームページからダウンロードして使用することもできます。)

②※卒業・修了証明書(最終出身学校)

③審査結果通知用郵便料(書留速達による送付のため770円分の郵便切手)

④※資格の免許等の写し<該当者のみ>

(看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士及び精神保健福祉士等の保健医療福祉関係の資格を有する場合は、免許等の写しを提出してください。)

※②、④について、申請書と姓が異なる場合には戸籍抄本を添付してください。

以上の書類を定型外角形2号の封筒(この要項に添付されている封筒とは別に用意する。)に入れ、郵送(書留速達)により「(4)提出先」あて提出してください。

(4) 提出先

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820番地
埼玉県立大学事務局大学経営改革室(大学院入試担当)
電話 048-973-4361(直通)

(5) 出願資格審査手続上の注意事項

ア 出願資格審査申請書類がすべてそろっていない場合には受理できませんので、十分確認してください。

イ 出願資格認定申請後に氏名、住所、電話番号に変更があった場合は、前記出願先まで速やかに連絡してください。

ウ 出願資格認定結果は出願資格審査後に本人あてに送付します。1月26日(月)に発送する予定ですが、1月29日(木)までに届かない場合は、前記提出先までお問い合わせください。

エ 入学を許可した後であっても、提出された出願資格審査申請書類の記載と相違する事実が発見された場合には入学を取り消すことがあります。

オ 一度受理した出願資格審査申請書類は、返還しません。

5 出願手続

(1) 出願期間

平成21年1月28日(水)～2月4日(水)(最終日の消印有効)
出願期間を過ぎた場合は、いかなる理由があっても受理しません。

(2) 出願方法

出願は郵送に限ります。いかなる場合も直接出願は認めません。出願書類を一括して取りそろえ、本学所定の出願用封筒により必ず書留速達で郵送してください。なお、最終日の消印は有効です。

(3) 出願先

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820番地
埼玉県立大学事務局大学経営改革室(大学院入試担当)
電話 048-973-4361(直通)

(4) 出願書類

出願に必要な書類		書類作成上の注意
A票	志願票(原票)	12ページの記入上の注意及び記入例を参照の上、必要事項をもれなく記入してください。社会人特別選抜に出願する方は、特に職歴を詳しく記入してください。
B票	住所票	① 合格通知書等の連絡を行うため使用します。 ② 郵便番号、住所、氏名を記入してください。
C票	写真票	① 13ページの記入上の注意及び記入例を参照の上、必要事項をもれなく記入してください。
D票	受験票	② 縦4cm×横3cmのカラー写真(正面上半身無帽、背景無し、出願前3か月以内に撮影したもの)2枚(同一のもの)の裏面に志望専修、氏名を記入し、はがれないように全面をのり付けして写真貼付欄に貼ってください。
E票	納入書	氏名、志望専修を記入してください。
F票	領収書	氏名、志望専修を記入してください。
G票	研究計画書	本学で作成した様式により作成してください。
	卒業(修了)証明書 又は卒業(修了)見込 証明書等	① 最終学歴の卒業証明書(卒業見込証明書)等を提出してください。 (任意の様式) ② 大学評価・学位授与機構より学位を授与された方は、学位記の写しを、学位を申請中の方は、学位授与申請受理証明書を提出してください。 ③ 証明書が現姓と異なる場合は、戸籍抄本を提出してください。
	在職証明書 (社会人特別選抜のみ)	保健医療福祉分野の実務経験が3年以上であることを証明する書類 (勤務先が発行するもの、様式任意)を提出してください。
	出願資格審査結果 通知の写し	出願資格審査により出願資格の認定を受けた方は、審査結果通知の写しを提出してください。
H票	受験票送付用封筒	「受験票」返送用として使用します。郵便番号、住所、氏名を明記し、出願する専修に○をつけ、350円分の切手を貼ってください。
I票	入学検定料 封入用封筒	郵便局で作成する30,000円の普通為替証書(作成手数料630円)を、普通為替用封筒(I票)に入れ、出願書類に同封してください。 なお、同証書の表面、裏面とも、何も記入しないでください。
J票	出願用封筒	「選抜区分・差出人欄」に必要事項を記入し、書留速達扱いにしてください。

(5) 出願手続上の注意事項

- ア 出願書類がすべてそろっていない場合には受理できませんので、出願の際には十分確認してください。
- イ 出願資格審査で、出願資格なしと判定された場合は出願できません。
- ウ 出願書類受理後には出願事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所、電話番号に変更があった場合は、前記出願先まで速やかに連絡してください。
- エ 受験票は出願書類受理後に本人あてに送付します。受験票は2月13日(金)に発送する予定ですが、試験日の2日前までに届かない場合は、前記出願先までお問い合わせください。
- オ 入学を許可した後であっても、提出された出願書類の記載と相違する事実が発見された場合には入学を取り消すことがあります。
- カ 一度受理した出願書類及び入学検定料は、返還しません。

(6) 身体に障害がある入学志願者の事前相談

身体に障害のある入学志願者で、特別な配慮を必要とする場合は、平成21年1月26日(月)までに埼玉県立大学事務局大学経営改革室まで連絡し、相談してください。

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820番地

埼玉県立大学事務局大学経営改革室(大学院入試担当)

電話 048-973-4361(直通)

6 出願前相談

本学大学院に出願する際に、入学後の研究計画、履修計画、関連資格取得状況、実務経験等について、希望者は事前に相談をすることができます。

(1) 受付期間

平成21年1月13日(火)から1月21日(水)(期限内必着)

(2) 相談方法

出願前相談を希望する場合には、出願を希望する専修別に下記連絡先にFAXまたはメールで予約をしてください。

件名は「大学院出願前相談」とし、本文には、①志願者氏名、②連絡先メールアドレス及び電話番号等、③大学院での研究テーマを記載してください。受付後、下記担当者から相談にあたる教員や相談日時等について、メール又は電話により返信します。また、来学当日は、本学ホームページから「出願前相談票様式」をダウンロードし、必要事項を記入の上、持参してください。

(3) 事前相談連絡先

専修名	担当者	FAX番号	メールアドレス
看護学	教授 中崎 啓子	048-973-4807	nakazaki@spu.ac.jp
リハビリテーション学	教授 高柳 清美	048-973-4176	takayanagi-kiyomi@spu.ac.jp
健康福祉科学	教授 萱場 一則	048-973-4314	kayaba-kazunori@spu.ac.jp

7 研究指導に関わる教員の研究テーマ

(1) 看護学専修

教員名	主な研究テーマ
野川 とも江	地域ケアシステム支援に関する研究
清水 洋子	地域看護活動における総合的支援と評価に関する研究
中崎 啓子	看護実践基盤に関する研究
鈴木 玲子	看護技術及び看護教育に関する研究
鈴木 幸子	女性特有の健康問題とその支援、及び周産期の母子と家族の健康支援に関する研究
添田 啓子	小児看護・小児看護教育に関する研究
西脇 由枝	小児在宅ケアに関する研究
川畑 貴美子	成人看護における急性期看護・がん看護に関する研究
横山 恵子	精神看護学領域における課題に関する研究
大塚 真理子	高齢者と家族の支援及び高齢者ケア実践に関する研究

(2)リハビリテーション学専修

教員名	主な研究テーマ
高柳 清美	運動器の障害構造解析に関する研究
金村 尚彦	基礎的手法を用いた理学療法効果に対する検証
森山 英樹	運動器障害の発生機序及びそれに対する理学療法的効果に関する研究
星 文彦	姿勢制御メカニズムの運動学的解析に関する研究
西原 賢	身体運動機能の解析法に関する研究
伊藤 俊一	運動機能障害の予防に関する研究
藤縄 理	障害に対する治療効果に関する研究
丸岡 弘	内部障害における運動生理学及び動態力学的研究
原 和彦	補装具及び義肢装具の開発・評価に関する研究
久保田 富夫	生活環境への適応と支援に関する研究
濱口 豊太	生体防御機構と健康促進、及び生活支援プログラム開発に関する研究
加藤 朋子	自己及び生活に関する認識分析と臨床的応用に関する研究
久保田 章仁	高齢者の特性とストレス、及び近所コミュニティに関する研究
田口 孝行	地域リハビリテーションにおける理学療法効果と健康増進に関する研究

(3)健康福祉科学専修

教員名	主な研究テーマ
小牧 宏一	病態解析学領域における生体科学的研究
室橋 郁生	長寿と老化—遺伝子学的、細胞生物学的特性についての研究
萱場 一則	行動科学的因子と健康問題の関連についての疫学研究
三浦 宜彦	地域特性と健康関連情報に関する疫学的研究
坂井 博通	健康とライフスタイルの関連性に関する研究
川口 典男	介護労働、高齢者雇用の需給分析、社会保障分野の国際協力に関する研究
福田 素生	社会保障、福祉政策に関する研究
鈴木 真理子	家族家庭福祉に関する政策から実践に関する研究
市村 彰英	家族臨床心理学に関する研究
梅崎 薫	高齢者領域でのソーシャルワークに関する研究
徳田 哲男	自立生活支援における多様なアプローチに関する研究
朝日 雅也	職業リハビリテーションと障害者就労支援に関する研究

8 合格発表

(1) 発表日時

平成21年3月6日(金) 午前10時

(2) 発表方法

埼玉県立大学教育研修センター棟前の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者に合格通知書及び入学手続書類を送付します。

電報、電話、郵便等による問い合わせには、一切応じません。

(3) インターネットによる合格者の受験番号の閲覧について

合格者の受験番号については、インターネットを利用しても閲覧できます。閲覧できる期間は、合格発表日時から入学手続完了日までです。

<http://www.spu.ac.jp/>

* ご注意ください。

試験場及びその周辺で合格電報、レタックス等の受付を行う者がいても、埼玉県立大学とは一切関係なく、トラブル等が生じても責任を負えないので注意してください。

9 長期履修制度

本学大学院では定職についているなどの理由から、一般の学生に比べて年間に修得できる単位数や研究活動・学習活動のための時間が限られており、2年間の標準修業年限で修了することが困難な方を対象に、4年間を上限とした長期の修業年限を設定し、入学の時点から計画的に履修していく長期履修制度を設けます。

長期履修制度を利用するためには、入学手続時に申請が必要です。申請については合格通知書と共に入学手続書類を送付する際にお知らせします。

本制度を利用した場合、年間授業料は通常の2年間の年間授業料をそれぞれの修業年限で除した金額を年間授業料として納付していただきます。

また、本制度の認定を受けた者が予定より順調に履修計画が進んだ等の理由により、修業年限の短縮を希望する場合には、指導教員の意見を添え、申請することができます。その場合の年間授業料については別途計算方法を定めていますので、詳細は本学事務局大学経営改革室までお問い合わせください。

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820番地

埼玉県立大学事務局大学経営改革室(大学院入試担当)

電話 048-973-4361(直通)

10 入学手続

(1) 入学手続期間

平成21年3月17日(火)～平成21年3月18日(水)

(2) 入学手続方法

- ア 入学手続きの詳細及び必要な書類は、合格通知書発送時に直接本人あてに郵送します。
- イ 手続書類は直接持参又は郵送により提出してください。
持参する場合の受付時間は午前9時から午後5時まで(12時から1時を除く。)とします。
郵送の場合は必ず書留速達とし、入学手続期間最終日までに必着とします。
- ウ 入学料は所定の額を、合格通知書に同封した納入通知書で納付し、領収書を入学手続書類と合わせて持参又は郵送してください。

(3) 入学手続先(手続場所)

埼玉県立大学事務局大学経営改革室(大学院入試担当)
〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820番地 電話 048-973-4361(直通)

(4) 入学手続上の注意事項

- ア 入学手続期間を過ぎて到着した書類は受理しません。郵送の場合は所要日数を十分考慮して発送してください。
- イ 必要な書類及び入学料がすべてそろっていない場合には、受理することができません。書類提出の際は、十分確認してください。
- ウ 一度受理した入学手続書類及び入学料は返還しません。

(5) 初年度納付金

区 分		金 額	備 考
入学料	埼玉県内の者	211,500円	入学手続時に納付。 なお、埼玉県内の者とは、次のいずれかに該当する者をいう。 ① 平成20年4月1日以前から引き続き埼玉県内に居住する者 ② 平成20年4月1日以前から引き続き埼玉県内に配偶者又は一親等の直系尊属が居住する者
	上記以外の者	423,000円	
授 業 料		621,000円	入学後、前期(4月)、後期(10月)の2回に分けて納付。

注1 平成21年度入学者を対象とした金額です。授業料は変更される場合があります。

2 上記のほか、学生教育研究災害傷害保険料、教科書等の諸経費がかかります。

1.1 入学試験成績の開示

埼玉県個人情報保護条例に基づき、入学試験の成績（総得点のみ）を本人に限り開示することができます。希望する方は、事務局大学経営改革室に申し出てください。

(1) 開示の対象者

大学院入学試験を受験し、不合格であった者

(2) 申出の方法

受験者本人が受験票を持参してください。電話による照会には一切応じません。

(3) 開示期間

平成21年3月6日（金）～平成21年3月31日（火）

月～金曜日（祝日を除く）

午前9時～12時、午後1時～4時30分（合格発表日は午前10時～）

(4) 開示場所

埼玉県立大学事務局大学経営改革室（大学院入試担当）

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820番地 電話 048-973-4361（直通）

1.2 その他

(1) 奨学金

日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構が貸与する奨学金には、無利子の「第一種奨学金」と有利子（3.0%以内）の「第二種奨学金」とがあります。いずれも修了後返還が必要です。

・ 第一種奨学金〔無利子〕 月額：88,000円（自宅通学、自宅外通学に関係なく）

・ 第二種奨学金〔有利子〕 5万円、8万円、10万円、13万円、15万円（いずれも月額から奨学生が選択）

※ なお、金額や内容については、日本学生支援機構の制度変更に伴い、変更になることがあります。

(2) 授業料等の減免制度

不測の災害などのため、入学料又は授業料の納付が著しく困難な学生に対する減免制度があります。

(3) 入学を許可しない場合

卒業等について「見込み」を要件に出願した者は、平成21年3月までに、それぞれ、卒業、修了、学位の授与等が完了していない場合は、入学を許可しません。

また、提出された出願書類の記載と相違する事実が発見された場合にも、入学を許可しないことがあります。

II 試験会場案内

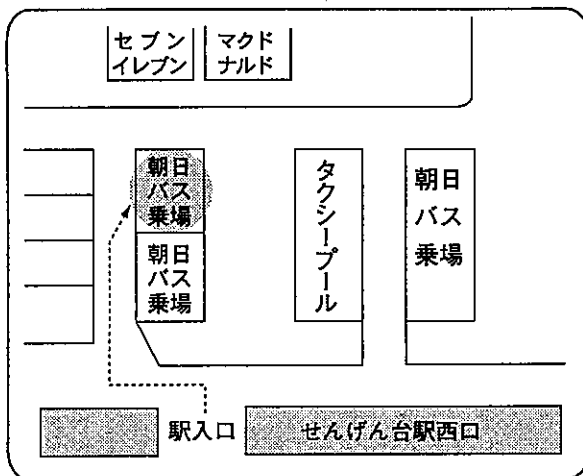
埼玉県立大学
〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820番地
電話 048-973-4361
(大学経営改革室・大学院入試担当)

* 試験当日は駐車場を利用できませんので、公共交通機関を利用してください。

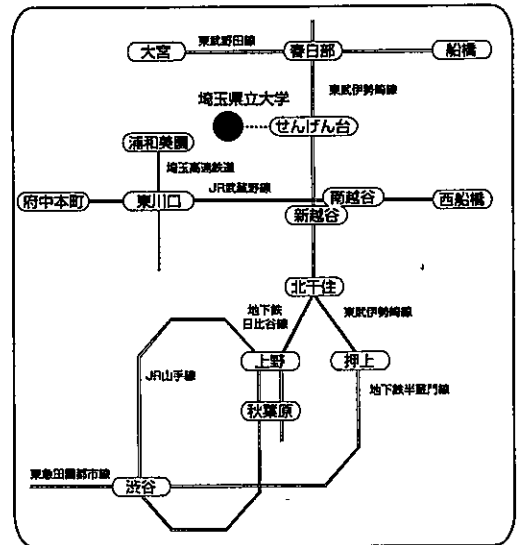
○ 交通

東武伊勢崎線せんげん台駅 西口下車 徒歩約20分
又は県立大学行バス(朝日バス)約7分、170円

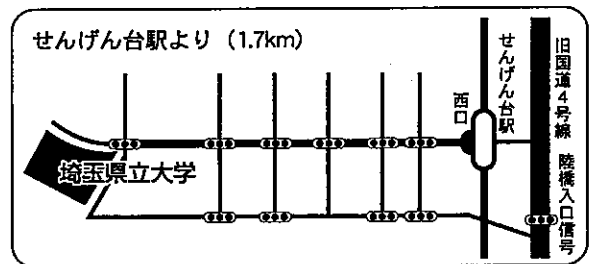
○ 大学バス乗り場



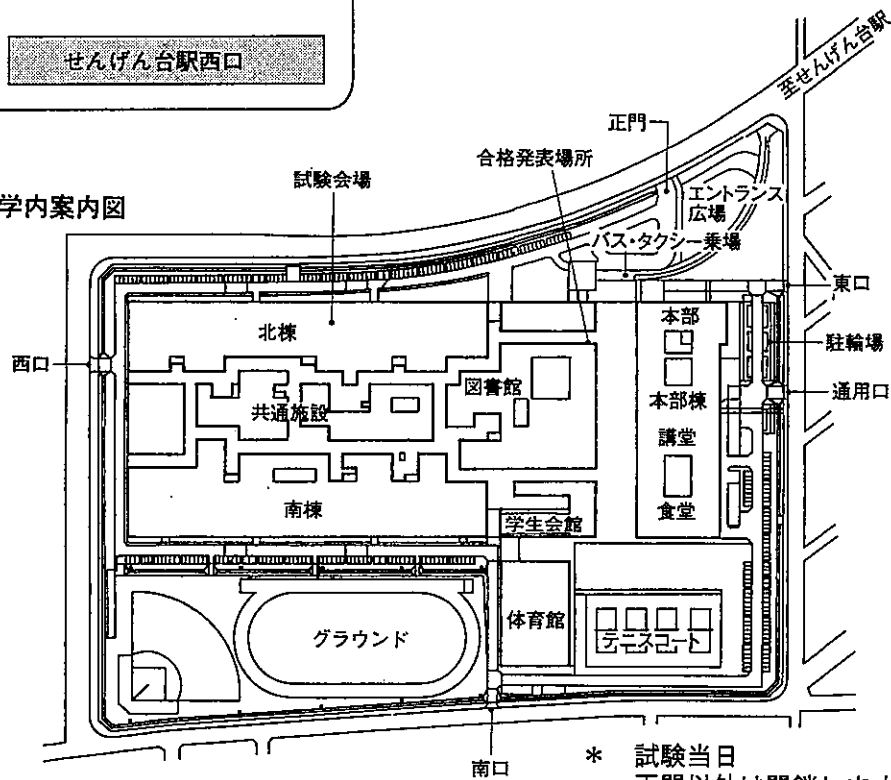
○ 鉄道路線図



○ せんげん台駅から



▼ 学内案内図



* 試験当日 正門以外は閉鎖します

Ⅲ 出願書類記入上の注意及び記入例

志願する専修及び試験区分に
○印をつけてください。

平成21年度 埼玉県立大学大学院
入学志願票
〔保健医療福祉学研究科〕

(原票)

A 票

受験番号 ※

何も記入し
ないでくだ
さい。

合格通知書
の送付や緊
急時の連絡
ができる住
所、電話番
号を記入し
てください。

志望専修(○をつけてください)		看護学		リハビリテーション学		健康福祉科学		専修		
試験区分(○をつけてください)		一般選抜		社会人特別選抜						
フリガナ	サイタマ ジロウ			生年	昭和49年5月5日					
志願者氏名	埼玉 次郎			男・女	男					
住所	〒330-9301		電話番号	(048) 830-3229						
	埼玉県 さいたま市浦和区高砂3-15-1 高砂アパート101									
携帯電話	(090) 123X-567Y			ファクシミリ	(048) 830-4800					
履 歴										
学 歴 及 び 出願資格	年	月	立	埼玉県立 彩の国 高等学校	普通	科	卒業			
	年	月	立	専門学校		科	入学			
	年	月	立	埼玉県立 衛生 短期大学		学部	第一看護科	卒業		
	年	月	立	大学		学部	科	入学		
	年	月	立					卒業		
	年	月	立					卒業見込		
年	月	立	独立行政法人大学評価・学位授与機構			学位授与 学位授与見込				
職 歴	在職(従事)期間		勤 務 先		職位(職務分野)	形態(どちらかに○)				
	年	月	日	～	年	月	日	彩の国病院	看護師 (看護)	常勤
	年	月	日	～	年	月	日	東彩の国医院	看護師 (看護)	非常勤
	年	月	日	～	年	月	日	〇×ケアセンター	看護師 (健康相談)	非常勤
年	月	日	～	年	月	日		()	非常勤	
勤務期間計算	常勤		9年		非常勤 1日4時間×週5日×24ヶ月=480時間					
勤務期間合計	(9年・480時間)									
免許・資格	名称・種類		取得(免許)年月日		取扱(認定)機関					
	看護師		平成8年5月XX日		厚生省					

所有する免
許に書かれ
ている名称
をそのまま
記入してく
ださい。

(注) ※欄は記入しないこと。

・学歴・職歴について、この表に書ききれない場合には同様の様式を作成し添付してください。

・出願受理後は、出願書類及び入学検定料は理由を問わず返還しません。

黒のペン又はボールペンで記入してください。

B票からF票は、絶対に切り離さないでください。

何も書かないで
ください。 B 票

住 所 票

両方記入してください。

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">3</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">3</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">0</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">-</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">9</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">3</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">0</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td colspan="8">住所 埼玉県さいたま市浦和区 高砂3-15-1 高砂アパート101</td> </tr> <tr> <td colspan="4">氏名 埼玉 次郎</td> <td colspan="4">様</td> </tr> </table>	3	3	0	-	9	3	0	1	住所 埼玉県さいたま市浦和区 高砂3-15-1 高砂アパート101								氏名 埼玉 次郎				様				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">3</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">3</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">0</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">-</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">9</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">3</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">0</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td colspan="8">住所 埼玉県さいたま市浦和区 高砂3-15-1 高砂アパート101</td> </tr> <tr> <td colspan="4">氏名 埼玉 次郎</td> <td colspan="4">様</td> </tr> </table>	3	3	0	-	9	3	0	1	住所 埼玉県さいたま市浦和区 高砂3-15-1 高砂アパート101								氏名 埼玉 次郎				様			
3	3	0	-	9	3	0	1																																										
住所 埼玉県さいたま市浦和区 高砂3-15-1 高砂アパート101																																																	
氏名 埼玉 次郎				様																																													
3	3	0	-	9	3	0	1																																										
住所 埼玉県さいたま市浦和区 高砂3-15-1 高砂アパート101																																																	
氏名 埼玉 次郎				様																																													

(注)1 ※印欄には記入しないでください。
2 この住所票はシール式になっているので、はがれないように取り扱ってください。

平成21年度 C 票

埼玉県立大学大学院入学試験写真票

写真貼付欄

正面上半身無帽、背景無し、出願前3か月以内に撮影したもの
縦4cm×横3cm (貼写真)

何も記入しないでください。

試験区分に○印をつけてください。

専修名を記入してください。

受験番号	※				
専修・選抜		看護学	専修	一般	社会人特別
フリガナ		カイ アツ ジョウ			
氏名		埼玉 次郎			
性別		男			

試験会場 埼玉県立大学

(注) 1 ※印欄には記入しないでください。
2 選抜については○をつけてください。

平成21年度 D 票

埼玉県立大学大学院入学試験受験票

写真貼付欄

正面上半身無帽、背景無し、出願前3か月以内に撮影したもの
縦4cm×横3cm (貼写真)

何も記入しないでください。

専修名を記入してください。

受験番号	※				
志望専修		看護学			
選抜区分		一般・社会人特別			

フリガナ	カイ アツ ジョウ
氏名	埼玉 次郎
性別	男
試験会場	埼玉県立大学

(注) 1 ※印欄には記入しないでください。
2 選抜については○をつけてください。
3 受験票は、合格後入学手続きに必要ですから、紛失しないでください。

納 入 書 E 票

平成20年度

金 額	¥30,000円
-----	----------

埼玉県立大学大学院
平成21年度入学試験入学検定料

上記の金額を納入します。

平成21年 月 日

受験番号	※				
氏名		埼玉 次郎			
専修名		看護学			

試験会場 埼玉県立大学

何も記入しないでください。

(注) ※印欄及び日付は記入しないでください。

専修名を記入してください。

領 収 書 F 票

平成20年度

金 額	¥30,000円
-----	----------

埼玉県立大学大学院
平成21年度入学試験入学検定料

上記の金額を領収しました。

平成21年 月 日

受験番号	※				
氏名		埼玉 次郎			
専修名		看護学			

埼玉県立大学
分任出納員 印

何も記入しないでください。

専修名を記入してください。

(注) ※印欄及び日付は記入しないでください。

黒のペン又はボールペンで記入してください。

○埼玉県立大学 携帯サイト

資料請求方法などの各種情報を携帯電話で閲覧できます。



<http://daigaku.jc.jp/u.php?u=00110>

【問い合わせ先】

埼玉県立大学

Saitama Prefectural University

事務局大学経営改革室

(大学院入試担当)

〒343-8540

埼玉県越谷市三野宮820番地

電話 048-973-4361

ファクシミリ 048-973-4807

URL <http://www.spu.ac.jp/>

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	看護学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	2	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 中崎 啓子	(その他の担当教員) 岩満 裕子			
授業概要	<p>看護管理システムに関するテーマ 看護管理システム論を受講したもののみ受講できる。 保健・医療領域で利用されている看護関連システムの評価を踏まえ、質の高い看護サービスを提供するために、今後求められるシステムについて追究する。看護管理者等が現場やフィールドワークを行うことによって、遭遇する諸問題を探り上げ、多様なデータベースやネットワークシステムを利用して、必要情報を効果的に収集し、統計学的手法、経営工学的手法等を用いて問題の分析と解決を図るプロセスを実践的に学ぶ。さらにデータベース構築やネットワーク構築により、情報を発信し、管理する基本的能力を涵養する。</p>				
授業計画	回	テーマ	内容		担当教員
	1-2	基本的問題解決手法	オペレーションリサーチや統計学的手法、経営工学的手法を用いて問題の分析と解決の論理と基本的プロセスを紹介する。		中崎 岩満
	3-6	病院における看護管理問題の演習	組織運営や人材育成等に関するテーマについて、問題の把握、解決方法、評価のプロセスをグループ討議等により演習する。必要情報は何か、それをどのように収集するか、問題解決に適した手法は何か、具体的実行方法とその結果の予測および評価の一連の過程を演習する。		中崎 岩満
	7-10	地域看護管理における問題の演習	地域健康管理や地域保健計画に関するテーマについて、問題の発見・把握から解決策の検討、実施した結果の予測・評価に至る一連の過程を演習する。		中崎 岩満
	11-14	事業計画の立案から評価までの演習	現状分析から未来を見つめ、何が、今後必要となるのかを考え、部門での事業計画を評価指標も考え立案する。		中崎 岩満
	15	まとめ	演習問題を通じて、論理的に看護管理の諸問題を解決する方法を総括する。		中崎 岩満
テキスト 参考文献等	特になし 随時紹介する。				
成績評価の方法・基準	レポートおよび演習の平常点により評価する。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	看護学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	2	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 野川 とも江	(その他の担当教員) 清水 洋子			
授業概要	<p>地域ケア支援に関するテーマ 地域及び病院、施設等において、地域ケア支援の上で課題となっている諸課題・事例を取り上げるとともに、フィールドワークも行いながら、得られた課題分析を行う。また、問題解決のプロセスをアクションプランを策定し提言するとともに、一部分については実践・評価し、問題解決能力および地域ケア支援政策能力の向上を図る。</p>				
授業計画		テーマ	内容		担当教員
	1-2	地域住民の多様なニーズ、地域特性と地域ケア支援のための問題解決手法	地域住民の多様なニーズに対応する地域ケア支援手法および問題・課題把握と分析の方法を学び、論理的な問題解決方法を習得する。		野川 清水
	3-6	地域ケア支援事業の展開方法の演習	地域ケア支援の展開のために、特定の対象・家族・地域・機関における支援事業の展開方法及び評価方法をグループ討議等により演習する。必要な情報と収集(把握)方法、問題解決のための手法の選択、実施目標・方法・結果の予測と評価の一連の過程を演習する。		野川 清水
	7-10	個別事例のケアマネジメント・ケアマネジメントシステムの演習	地域に生活する高齢者、障害者、高度の医療依存者、ターミナルケア等の特性をもつ対象者の課題の分析と地域ケア支援方法をグループ討議等により演習し、ケアマネジメントおよびケアマネジメントシステム構築の実践能力の向上を図る。		野川 清水
	11-14	地域保健計画等の包括的・統合的意義	高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、地域保健計画との関連と包括的・統合的意義および協働的活動の意義についてグループ討議等で演習する。		野川 清水
	15	まとめ	地域ケア支援の諸問題を論理的に解決する方法を総括する。		野川 清水
テキスト参考文献等	特になし。随時指定する。				
成績評価の方法・基準	レポートおよび平常点により評価する。				
備考					

授業科目名	看護学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	2	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 川畑 貴美子	(その他の担当教員)			
授業概要	<p>成人看護援助に関するテーマ 健康状態が変容していく過程(急性あるいは慢性状態)にある成人患者の現状をふまえて、複雑な問題を抱えて生活している患者とその家族を対象とした看護について、主にがん患者と家族の看護援助に関する概念・理論及び看護介入モデルを探索する。更に、これまでの臨床で培った自己の看護実践を基にフィールドワークも行いながら、課題を明らかにし研究法について探求する。</p>				
授業計画	回	テーマ	内容		担当教員
	1-2	がん医療の概観と意思決定への支援	文献ならびに、学生自身の体験を通して、患者の価値観を知り、がん治療の意思決定を支援するために必要な理論と技術を学び、援助方法を探求する。		
	3-6	がんおよびその治療過程により生じる障害のアセスメントと援助法	がんの診断時から、治療選択によって起こる器質的・機能的変化の適応に関する意思決定を支援し、がんやがんの治療下での合併症予防・副作用の早期発見のためのアセスメントと管理および治療による心身の苦痛の軽減方法について探求する。		
	7-8	がん患者の障害の評価とQOL	がん患者のADLとQOL評価方法を学び、がんの進行や治療経過における変化を理解する。様々な起こりうる障害の程度と生活への影響をアセスメントする能力を養い、患者と家族に対する援助法について探求する。		
	9-12	がんリハビリテーションとチーム医療に関連する課題とその支援	患者の身心の安全・安楽をさまざまなリソースを活用して支援する方法とがんチーム医療連携方法を探究する。がんリハビリテーションにおける多職種の役割を理解し、望ましいチーム医療について探求する。		
	13-15	成人期のがんを含めた健康問題における看護演習の総括	成人期にある健康問題に関する看護および関連領域の研究動向について検討し、事例等の分析を通して現状を評価し研究方法論を学び、自己の研究課題を探究する。		
テキスト 参考文献等	授業の都度、紹介する。				
成績評価の方法・基準	授業時に提示された資料、授業への参加態度、レポートにより評価を行う。				
備考					

授業科目名	看護学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	2	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 添田 啓子	(その他の担当教員)			
授業概要	<p>小児看護援助に関するテーマ 小児看護学領域の研究文献の検討を行うとともに、探究したい小児看護の現象について文献検索を行い研究課題となりうるか検討する。また小児看護学領域における研究方法について学ぶ。さらに、オレムのセルフケア不足看護理論を用いて、フィールドワークも取り入れた看護を實踐し、理論を用いた小児看護実践とその効果と課題について検討する。これらの過程を通して小児看護の専門職業人として自己課題を明らかにし、さらに特別研究で探求すべきテーマと方法を見いだす。</p>				
授業計画	回	テーマ	内容		担当教員
	1-2	文献検討	小児看護学領域の研究文献を読み批判的に検討する。		
	3-4	研究課題の探究	探究したい小児看護の現象について、文献検索を行い、研究課題となりうるか検討する。		
	5-8	小児看護学領域における研究方法の検討	検索した研究文献を用いて小児看護学領域における研究方法、特に研究目的に応じた研究方法について検討する。 小児の対象特性とデータ収集方法、倫理的配慮、小児看護領域における研究の特徴、研究の限界、分析方法		
	9	小児看護学領域における研究計画書の作成	小児看護学領域における研究計画書の作成		
	10	理論に基づく小児看護実践の検討①	オレムのセルフケア不足看護理論を用いて看護を實踐し、理論を用いた小児看護実践について導入という点から検討する。		
	11	理論に基づく小児看護実践の検討②	セルフケア不足看護理論に基づきアセスメントを行う。		
	12	理論に基づく小児看護実践の検討③	セルフケア不足看護理論に基づき看護問題、計画を立案、看護を實踐する。		
	13	理論に基づく小児看護実践の検討④	セルフケア不足看護理論に基づき看護を實踐し、評価を行う。		
	14	理論に基づく小児看護実践の検討⑤	セルフケア不足看護理論を用いた小児看護実践、その効果と課題についてレポートにまとめ報告する。		
15	まとめ	学んだことを振り返り、まとめる。			
テキスト参考文献等					
成績評価の方法・基準	授業の参加態度、討議内容、レポートにより評価する。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	看護学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	2	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 大塚 真理子	(その他の担当教員)			
授業概要	<p>老年看護援助に関するテーマ 自分が行ってきた老年療養支援の実践についてリフレクションを行い、自己の課題を明かにする。特に、老年療養支援を行うために必要な能力である高齢者の尊厳を守る倫理的な感受性、高齢者のアセスメント、家族のアセスメントや高齢者と家族との関係性のアセスメント、高齢者へのケア力、チームケア力などについて分析する。また老年療養支援の場である病院、施設、在宅などにおける課題についてフィールドワークも取り入れながら、文献や実践事例をもとに検討する。</p>				
授業計画	回	テーマ	内容		担当教員
	1	振り返りの方法	自分の看護実践を振り返り方法として、プロセスレコードおよびリフレクションについて理解を深める。		
	2-3	自己の課題の明確化	プロセスレコードの作成およびリフレクションによって、自分自身の老年看護実践の課題を考察する。		
	4-7	文献抄読	関連分野の文献を検索収集して文献検討を行い、研究課題を探索する。		
	8	看護実践の素材化と分析	老年看護実践を研究対象として素材化する方法および分析方法の理解を深める。		
	9-12	看護実践・素材化	自分の課題に応じた看護実践を展開し、記録して素材化する。		
	13-15	看護実践の分析、まとめ	素材を分析し、老年看護実践の評価および自分自身の課題の達成を評価する。		
テキスト 参考文献等	随時紹介します。				
成績評価の方法・基準	成績評価は文献抄読、看護実践の内容、自己評価内容、レポートなど総合的に判断します。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	看護学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	2	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 鈴木 幸子	(その他の担当教員)			
授業概要	<p>リプロダクティブヘルスに関するテーマ 生涯を通じた女性の健康、セクシュアルヘルス、周産期の母子と家族に関わる看護学領域の研究の動向と健康に対する課題を理解し、各自の研究課題を探求し、研究的な方法論を事例分析やフィールドワークを行うことによって修得する。さらに女性を主体にした健康教育及び支援技術に焦点を当て、援助技術の開発に資する研究的方法を学ぶ。</p>				
授業計画	回	テーマ	内容		担当教員
	1-2	リプロダクティブヘルスと倫理的課題	倫理原則およびリプロダクティブヘルスに関連する倫理的課題について、文献ならびに、学生自身の体験を通して、理解を深める		
	3-8	生涯を通じた女性の健康に関連する課題とその支援	事例検討やそれを踏まえたロールプレイを通して、様々なライフステージにある女性に適した健康教育について検討し、研究課題を探索する。		
	9-13	周産期の母子と家族に関わる看護支援	事例検討やそれを踏まえたロールプレイを通して、さらには、臨床の場において対象者と看護職者の関わりから、周産期の母子と家族に関わる課題と支援方法の検討を行い、研究課題を探索する。		
	14-15	リプロダクティブヘルスにおける看護研究	リプロダクティブヘルスに関する看護および関連領域の研究動向について検討し、研究方法論を学び、自己の研究課題を探究する。		
テキスト 参考文献等	授業の都度、紹介する				
成績評価の方法・基準	授業時に提示された資料、授業への参加態度、レポートにより評価を行う。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	看護学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	2	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 横山 恵子	(その他の担当教員)			
授業概要	<p>精神看護援助に関するテーマ これまでの精神看護学の実践経験を基に学習目標を掲げる。その目標到達の手段として具体的な方法を設定する。選択した現象について文献検索を行い、さらにはフィールドワークなどを通して各自が行った調査結果について考察し、実践、教育、施策、研究の分野について改善策を提案する。</p>				
授業計画	回	テーマ	内容	担当教員	
	1-2	急性期における看護	精神症状と看護、薬物療法に関しての最近の知見をもとに理解を深める。		
	3-4	精神療法の実際	精神分析療法、行動療法、心理教育、SSTなどの精神療法の実際について理解を深める。		
	5-6	アディクションと看護	アルコール・薬物依存症と看護、依存症病棟における治療構造、セルフヘルプグループとの連携について理解を深める。		
	7-8	リハビリテーション 精神看護	精神障害者に対するケアマネジメント、地域看護のあり方について理解を深める。		
9-15	精神看護実践の実際	各自の実践経験や関心のあるテーマをプレゼンテーションし、ディスカッションする。			
テキスト 参考文献等	特定しない。必要な文献等については随時提示する。				
成績評価の方法・基準	授業への参加態度、授業におけるプレゼンテーション及びレポートにより評価する。				
備考					

授業科目名	リハビリテーション学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	4	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 高柳 清美	(その他の担当教員) 金村 尚彦 森山 英樹			
授業概要	<p>障害基礎解析学に関するテーマ 生理学、運動生理学、運動機能解剖学、運動学、生体工学、形態学、組織化学などに基づき、骨関節系、中枢神経系、呼吸・循環器系、内分泌・代謝系疾患などによって生じる運動器障害の解析理論と技術・方法を演習する。さらに様々な疾患により発生した運動器障害の構造解析の方法を関連論文より抽出するとともに、フィールドワークでの演習も試みながら、方法の妥当性、問題点について議論する。</p>				
授業計画	回	テーマ	内 容		担当教員
	1-2	生体信号処理解析法の基礎	アナログおよびデジタルの生体信号の採取法、加工処理法、分析法についてのオリエンテーション。		高柳
	3-6	生理学、運動生理学的分析の基礎	脳波計、筋電計、心電計など生体信号による生理学・運動生理学的分析法を演習し臨床応用について議論する。		高柳
	7-10	運動機能解剖学的分析の基礎	MRI、超音波測定機器などを用いた運動機能解剖学的分析法を演習し臨床応用について議論する。		高柳
	11-14	運動学・生体力学的分析の基礎	3次元動作解析、身体平衡バランス測定機器などを用いた運動学・生体力学的分析法を演習し臨床応用について議論する。		高柳
	15-18	実験動物飼育管理法	実験動物を飼育管理し、適切な方法を学ぶ。		金村
	19-22	形態学的分析法	組織の採取、標本作製、観察する一連の流れを学び、臨床応用について関連論文を抄読し議論する。		金村
	23-26	生化学的分析法	組織の採取、サンプルの調製、分析する一連の流れを学び、臨床応用について関連論文を抄読し議論する。		森山
27-30	データ分析法	形態学的、生化学的手法でまとめたデータの分析法を学ぶ。		森山	
テキスト参考文献等	特になし				
成績評価の方法・基準	レポート				
備考					

授業科目名	リハビリテーション学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	4	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 星 文彦	(その他の担当教員) 西原 賢			
授業概要	運動解析学に関するテーマ 運動解析学特論の修得を踏まえ、一般的運動解析手法について学内やフィールドワークでの演習を行い、得られたデータの信頼性や妥当性に関する検証方法を学習する。さらに、運動学的(kinesiology)視点からその正常と異常について考察を行い、理学療法及び作業療法介入の理論背景と疾病の障害特性を検証する。具体的には、随意運動制御、反応時間、姿勢応答、起居移動動作や基本的な生活動作などを解析対象として実験テーマを掲げ解析演習を行う。				
授業計画	回	テーマ	内 容		担当教員
	1-4	観察と記録	寝返り動作や背臥位からの立ち上がり動作等を分析課題として観察と記録の仕方を演習する。		星
	5-8	kinematic analysis	椅子からの立ち上がり動作及び歩行等を分析対象として演習を行う。		星
	9-12	kinetic analysis	椅子からの立ち上がり動作や歩行開始等を分析対象として演習を行う。		星
	13-16	reaction time	姿勢自動応答や随意運動、二重課題等を分析対象として演習を行う。		星
	17-20	身体運動の観測方法	身体運動時の動作、発揮される力の変化、筋活動の変化について適切な観測と記録手法を身につける。		西原
	21-24	身体運動の観測データの見方	記録した身体運動のデータを観測して、分析方法について立案する。		西原
25-30	観測データの分析方法の習得	積分、RMS、整流平滑、周波数解析、相互相関などの手法を用いて観測データを客観的に分析する手法を体験する。		西原	
テキスト 参考文献等	臨床運動学(中村隆一他編集、医歯薬出版)、資料配布、検索文献				
成績評価の方法・基準	単位認定は、小テスト、レポート、発表、授業への参加度等を総合的に判断し行う。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	リハビリテーション学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	4	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 伊藤 俊一	(その他の担当教員)			
授業概要	<p>障害予防学に関するテーマ 障害予防学特論の修得を踏まえ、その評価や解析手法、さらに介入方法について学内およびフィールドワークでの演習を行う。また、得られたデータの信頼性や妥当性、さらに有用性について効果判定を交えた検証方法を学ぶ。</p>				
授業計画	回	テーマ	内 容		担当教員
	1-5	運動器疾患による機能障害の評価と解析と介入法の検証	運動器疾患による運動機能障害予防に対する評価・解析法、介入法に関して、各種工学機器も使用して演習を行う。		
	6-10	中枢神経疾患による機能障害の評価と解析と介入法の検証	中枢神経疾患による運動機能障害予防に対する評価・解析法、介入法に関して、各種工学機器も使用して演習を行う。		
	11-15	代謝性疾患による機能障害の評価と解析と介入法の検証	代謝性疾患により生じる運動機能障害予防に対する評価・解析法、介入法に関して、各種工学機器も使用して演習を行う。		
	16-20	呼吸器・循環器疾患による機能障害の評価と解析と介入法の検証	呼吸・循環器疾患による運動機能障害予防に対する評価・解析法、介入法に関して、各種工学機器も使用して演習を行う。		
	21-25	加齢による機能障害の評価と解析と介入法の検証	加齢による運動機能障害予防に対する評価・解析法、介入法に関して、各種工学機器も使用して演習を行う。		
	26-30	評価法・解析法および介入法演習検討会	第25回までに修得した障害予防学を基にして個人テーマを決定し、その評価法、解析方法、介入法に関する検討会を行う。		
テキスト 参考文献等	随時紹介する。				
成績評価の方法・基準	出席状況、提出物、抄読会発表など総合的に行う。				
備考					

授業科目名	リハビリテーション学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	4	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 藤縄 理	(その他の担当教員)			
授業概要	<p>運動器障害治療学に関するテーマ 運動器障害治療の基礎科学、評価・治療の基本概念とそれを実践するための臨床応用、臨床研究についてフィールドワーク演習を行い、脊柱と四肢の評価・治療における実践的手技の修得を行う。さらに、研究論文のレビューと症例研究を通じて実際の評価・治療の過程について臨床的推論を行い問題解決の手法を修得し、臨床研究の基礎とし、修士論文研究へと展開していく。</p>				
授業計画	回	テーマ	内 容		担当教員
	1-2	運動器障害治療における臨床的推論	運動器障害の評価・治療の臨床的推論方法を実際の症例を通じて学ぶ。		
	3-4	頭部・頸椎の評価治療	筋緊張性頭痛、頸部痛、頸部由来の上肢痛などの評価・治療を学ぶ。		
	5-6	胸椎・肋骨の評価治療	胸背部痛、肋骨および肋間痛、胸郭出口症候群などの評価・治療を学ぶ。		
	7-8	腰椎・骨盤の評価治療	腰痛・殿部痛・腰部骨盤由来の下肢痛の評価・治療を学ぶ。		
	9-10	肩甲帯・肩関節の評価治療	肩インピンジメントなどを含む肩甲帯・肩関節の障害による痛みや機能異常についての評価・治療を学ぶ。		
	11-12	肘・前腕の評価・治療	テニスエルボー・ゴルフエルボーなどを含む肘・前腕の障害による痛みや機能異常についての評価・治療を学ぶ。		
	13-14	手根・手指の評価・治療	手根・手指の障害による痛みや機能異常の評価・治療を学ぶ。		
	15-16	股関節の評価・治療	股関節やその周囲組織の障害による痛みや機能異常の評価・治療を学ぶ。		
	17-18	膝関節の評価治療	膝関節やその周囲組織の障害による痛みや機能異常の評価・治療を学ぶ。		
	19-20	足根・足部の評価治療	足根・足部の障害による痛みや機能異常の評価・治療を学ぶ。		
	21-22	神経機能異常の評価治療	軟部組織による末梢神経絞扼症状など機能障害によって起こる神経機能異常の評価・治療を学ぶ。		
	23-26	文献レビュー	運動器障害の評価・治療についてのエビデンスに関する文献レビューを発表する。		
	27-30	症例研究	日常の臨床で困難を感じた症例について、症例研究をして発表する。		
テキスト 参考文献等	Clinical reasoning for manual therapists. Jones MA and Rivett DA Ed. Butterworth Heinemann. Orthopedic physical assessment. Magee DJ. Saunders Orthopaedic physical therapy, 3rd ed. Donatelli RA and Wooden MJ Ed. Churchill Livingstone 他				
成績評価の方法・基準	口頭試問・実技試験、文献レビュー・同発表、症例研究・同発表などから総合的に行います。なお、文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしてもらいます。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	リハビリテーション学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	4	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 丸岡 弘	(その他の担当教員)			
授業概要	<p>内部機能障害治療学に関するテーマ 酸素搬送系障害をきたす疾患の中より代表的な疾患(心不全やCOPDなど)を取り上げ、その疾患特異性に基づく理学療法介入方策を検討する。具体的には、酸素搬送系障害によって引き起こされる病態や機能・構造障害、及び活動制限の発生機序などに関する研究論文を講読することで、理学療法に必要とされる科学的視点を考えることができる能力を向上させる。また、フィールドワークも行うことによって必要とされる研究テーマやその介入論を考える。</p>				
授業計画	回	テーマ	内容		担当教員
	1-2	酸素搬送系障害	酸素搬送系障害に対する理学療法介入方策(総論)		
	3-7	呼吸器系の酸素搬送系障害	呼吸器系の代表的な疾患(COPDなど)を取り上げ、引き起こされる病態や機能・構造障害、及び活動制限の発生機序を検討する。		
	8-12	呼吸器系の酸素搬送系障害	呼吸器系の代表的な疾患(COPDなど)を取り上げ、その疾患特異性に基づく理学療法介入方策を検討する。		
	13-17	循環器系の酸素搬送系障害	循環器系の代表的な疾患(心不全など)を取り上げ、引き起こされる病態や機能・構造障害、及び活動制限の発生機序を検討する。		
	18-22	循環器系の酸素搬送系障害	循環器系の代表的な疾患(心不全など)を取り上げ、その疾患特異性に基づく理学療法介入方策を検討する。		
	23-26	内分泌・代謝系の酸素搬送系障害	内分泌・代謝系の代表的な疾患(糖尿病など)を取り上げ、引き起こされる病態や機能・構造障害、及び活動制限の発生機序を検討する。		
	27-30	内分泌・代謝系の酸素搬送系障害	内分泌・代謝系の代表的な疾患(糖尿病など)を取り上げ、その疾患特異性に基づく理学療法介入方策を検討する。		
テキスト 参考文献等	<p>「内部障害理学療法テキスト」(南江堂) その他、随時紹介する</p>				
成績評価の方法・基準	口述発表またはレポート(60%)、出席(40%)で評価する。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	リハビリテーション学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	4	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 原 和彦	(その他の担当教員) 田口 孝行 久保田 章仁			
授業概要	生活環境支援系理学療法学に関するテーマ 本演習では、生活環境支援系理学療法の修得を踏まえ、実践的理学療法介入技術、支援技術の実践力を身につけるための実技演習を学内だけでなくフィールドワークにて行う。また介護予防、障害予防、障害者の在宅復帰に向けた様々な理学療法介入のエビデンスに関する文献的考察と議論を行う。				
授業計画	回	テーマ	内容	担当教員	
	1-2	生活環境支援系理学療法学総論	生活環境支援系理学療法学の総論及び義肢装具と身体の適応、補装具の開発研究に関する理学療法学研究法について講義を行う。	原	
	3-6	住宅環境と身体適応	日常生活上の様々な動作障害に対する理学療法介入や介助技術に関する演習を行う。	原	
	7-10	義肢装具と身体の適応	近年の義足ソケット適合の考え方、義足適合評価と歩行指導の基本技術について講義、演習を行う。	原	
	11-14	補装具の歩行分析研究	補装具の歩行分析研究に関する演習を行う。	原	
	15-18	高齢者の住み慣れた地域への在宅復帰に関する研究	埼玉県の高齢者福祉の特性を踏まえつつ、いかに住み慣れた地域および在宅にて健康な生活を送ることができるか、現状と課題について吟味する。	久保田	
	19-22	引きこもりがちな高齢者の特性、高齢者のストレス、近所コミュニティに関する研究	生体加齢変化に関する生理学的な分析考察を加えながら、高齢者の特性とコミュニティのあり方について吟味し、理学療法介入法に関して文献検索を含めて実証的に検証する。	久保田	
	23-26	高齢者の運動機能評価	高齢者の運動機能・自己効力感・QOLの評価、運動による効果について国内外の文献から検討する。	田口	
	27-30	介護予防・転倒予防の実践	介護予防・転倒予防における運動方法について検討する。	田口	
テキスト参考文献等	随時紹介する。				
成績評価の方法・基準	出席状況、提出物、抄読会発表など総合的に行います。				
備考					

授業科目名	リハビリテーション学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	4	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 中田 眞由美	(その他の担当教員)			
授業概要	機能適用支援系作業療法学に関するテーマ 特論から得られた分析的な枠組みを基に、具体的な手・上肢機能障害に対する評価・治療プログラム、機能障害を予防するプログラムを組み立てる実践力とその効果を検証する能力を養う。さらに学内やフィールドワークにおける演習を通して、手・上肢機能に適した日常生活用具や道具の使いよさ、デザインのよしあし、などについて議論する。				
授業計画	回	テーマ	内容		担当教員
	1-5	「手・上肢機能診断」演習	「手・上肢機能診断」は上肢機能について解析的に十分な詳しさを備え、かつ治療的プログラム立案に役立つ評価法である。この評価法の演習を通して、手・上肢機能を調べる際の評価視点、考え方について理解するとともに検査手技を身につける。		
	6-7	手・上肢機能の定量的測定	手・上肢機能の定量的な測定について、ワークシミュレーター等の機器を使って実技演習を行う。		
	8-10	「手・上肢機能診断」の臨床的有用性	「手・上肢機能診断」の臨床的有用性、他の上肢機能評価との違いについて議論する。		
	11-13	分析演習①	手の動作の中でもっとも複雑な動作の一つである箸の操作について、特論で学んだ分析的な枠組みを基に分析を行う。		
	14-18	分析演習②	分析演習①を基に、手の動作の分析を行い、それについて発表する。		
	19-22	手の感覚・知覚機能とその評価	手の感覚・知覚の検査について実習し、現存する検査方法の意義と解釈について議論する。		
	23-24	分析演習③	分析演習②で行った手の動作について、感覚・知覚の側面から分析を行う。		
	25-26	分析演習④	分析演習②で行った手の動作について、動作獲得のための練習プログラムを立案し、発表する。		
	27-28	道具の操作性	手の動作学の視点から、使いやすい道具の例とそのデザインについて発表する。		
29-30	手の痛みと動作	手・上肢の痛みについて、具体的な動作の例を挙げてその原因、予防法について発表する。			
テキスト 参考文献等	「手のかたち 手のうごき」鎌倉矩子、医歯薬出版、1989。 「知覚をみる・いかす」中田眞由美ほか、協同医書、2003。 「NOMA手・上肢機能診断」マニュアル、鎌倉矩子、中田眞由美、2007。 「シュルツ・上肢の痛みの評価法」中田眞由美訳、2003。 その他、随時紹介します。				
成績評価の方法・基準	単位認定はレポートとその発表などにより、総合的に行います。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	リハビリテーション学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	4	1・2後
担当教員名	(科目責任者)	(その他の担当教員)			
	久保田 富夫	加藤 朋子			
授業概要	<p>生活環境支援系作業療法学に関するテーマ 特論から得られた知識を応用し、ひとを中心として生活機能の評価から環境をとらえる。そして、ひとと環境との適応についての具体的事例を通して、客観的に評価・分析を行う実践能力を養う。さらに、生活環境支援と適応に関する論文や事例研究に加え、フィールドワークも行いながら、作業機能の評価や治療介入について演習を通して学ぶ。</p>				
授業計画		テーマ	内 容		担当教員
	1-10	実践演習Ⅰ	各自の関連するテーマについて必要な関連理論や方法論に関する文献・レポートに基づき討論する。		久保田 加藤
	11-20	実践演習Ⅱ	各自のテーマについて必要な国内外の関連論文に基づき討論する。		久保田 加藤
	21-30	実践演習Ⅲ	各自の関連するテーマについて実践した調査や介入の報告・討論を行う。		久保田 加藤
テキスト 参考文献等	関連学術雑誌から、各自文献を選ぶ。その都度紹介する。				
成績評価の 方法・基準	単位認定は、レポート、発表や討論における参加度など総合的に評価する。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	健康福祉科学演習		必修の区分	単位数	開講年次
			選択	2	1・2後
担当教員名	(科目責任者) 徳田 哲男	(その他の担当教員) 小牧宏一、室橋郁生、佐藤雄二、三浦宜彦、萱場一則、坂井博通、川口典男、福田素生、鈴木真理子、朝日雅也、市村彰英、金粕薫			
授業概要	健康福祉科学における健康行動実践学、社会福祉実践学における諸課題について演習形式により学習を深める。具体的には、文献や事例の検討、それに基づく議論等による授業展開を図るとともに、インターンシップやフィールドワークを取り入れながら行い、また、演習の実施にあたっては、履修する学生の関心や希望により、担当教員(の研究テーマ)を選択し、学生の研究テーマに即した素材や方法論を用いながら学習を進める。				
授業計画	回	テーマ	内 容		担当教員
	1-3	演習課題の選定	学生の研究テーマに即した課題の選定(そのための先行研究の分析等を含む)		
	4-6	演習の実施1	健康行動実践学および社会福祉実践学における文献や事例等を検索し、それによって得られた課題について検討する。		
	7-9	演習の実施2	健康行動実践学および社会福祉実践学に関する課題について、ゼミナール形式等によってさらに検討を重ねる。		
	10-12	演習の実施3	演習1、2で検討を行った諸課題について、健康福祉科学の視点から課題解決に向けてのアプローチを進める。		
13-15	演習のまとめ	検討した課題についてまとめを行う。			
テキスト 参考文献等	参考文献等は必要に応じて紹介する。				
成績評価の 方法・基準	演習への参加を総合的に勘案して評価する。				
備考					

保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻

授業科目名	保健医療福祉概論		必修の区分	単位数	開講年次
			必修	2	1・2前
担当教員名	(科目責任者)	(その他の担当教員)			
	野川 とも江	久保田 章仁	田口 孝行	高橋 紘士	
授業概要	<p>保健医療福祉課題の解決においては、グローバル化が進み、国際的、国家的視野での対策と政策が重要である。国際的、国家的な視野で政策を理解し、保健医療福祉の目指す方向性を考察する。また、人々の多様な個別的ニーズやQOLを尊重した質の高いケアやサービスを提供するために必要となっている保健医療福祉の相互に係る総合的・包括的・継続的な活動支援方法、専門職の協働的なかかわり方の意義を学ぶ。さらに、地域ケア構想の推進のために、都道府県、自治体、小地域(日常生活圏域)における重層的で、包括的な支援システムの構築の意義や方法を地域実践事例を提示し、分析検討する。</p>				
授業計画	回	テーマ	内容		担当教員
	1-2	高齢者保健医療福祉政策及び支援システムの国際的な動向	国際的な課題である超高齢社会における高齢者及び介護家族を支援する保健医療福祉政策の国際的な動向を理解する。特に、イギリス、北欧福祉先進国、アメリカの動向を知る。		野川
	3-4	日本における保健医療福祉政策及び高齢者の支援システムの現状と課題	諸外国の高齢者保健医療福祉政策と比較しながら日本の現状を知り、課題及び今後のあり方に関する方向性を展望し、考察する。		野川
	5-6	地域ケア構想の推進と病院・地域及び看護と介護の連携	地域ケア構想の推進における病院と地域との連携、看護と介護の関係と協働について分析検討する。		野川
	7-8	地域実践事例の分析と課題の検討	都道府県、自治体、小地域(日常生活圏域)における重層的で、包括的な高齢者支援システムの構築の意義や方法を理解する。		野川
	9-10	リハビリテーションシステムと課題分析	利用者の立場に立ったリハビリテーションシステムのあり方及びリハビリテーション政策と課題について学ぶ。		久保田
	11-12	障害者の支援システムと課題分析	障害者自立支援法における障害者支援システムおよびその他の障害者支援システムの課題と今後のあり方について検討する。また、リハビリテーションと介護の関係、病院リハビリテーションと地域との連携について学ぶ。		田口
	13-15	日本の保健福祉医療に関する根源的課題	地域社会の在り方、家族の人間関係と役割の変化、住民と行政の関係などは、保健医療福祉の専門性と協働、そして役割分担に深いかかわりがある。それらの国内外の過去の動向を踏まえながら、今後の保健医療福祉の方向性を考える。		高橋
テキスト参考文献等	特になし。随時紹介する。				
成績評価の方法・基準	ディスカッション、プレゼンテーション、レポート、出席状況の内容を総合して評価する。				
備考	自らの活動領域の課題分析、文献考察等のプレゼンテーション、ディスカッションを中心とした参加型の学習であるため、十分な予備知識のもとで活発な討論ができることを望む。				

教育開発支援本部に関する要項

(名 称)

第1条 埼玉県立大学に教育開発支援本部（以下「支援本部」という。）を置く。

(目 的)

第2条 支援本部は、大学における教育に関し、全学的視野から研究を行い、その成果にもとづいて、保健・医療・福祉分野の教育の改善活動を企画・評価し、本学における大学教育の改善支援を行う。

(諸 活 動)

第3条 支援本部は、前条の目的を達成するために次の諸活動を行う。

- 一 教育システムに関するカリキュラムの調査・研究及び改訂企画等
- 二 教育評価法の調査・研究
- 三 教授法等教育方法 の調査・研究、教職員研修等の企画支援、教材研究支援
- 四 入学前教育及び卒業後の教育の企画
- 五 その他、支援本部の目的を達成するために必要な活動

(構 成 員)

第4条 支援本部は、次に掲げる者をもって構成する。

- 一 副学長
 - 二 教員
- 2 支援本部に本部長及び本部長代理を置く。
 - 3 本部長は副学長をもって充て、本部長代理は本部長が指名する。
 - 4 本部長は、支援本部を統括する。
 - 5 本部長代理は、本部長を補佐し、本部長に事故あるときは、本部長代理がその職務を行う。

(学部及び研究科との連携)

第5条 諸活動の実施にあたり必要があるときは、本部長は、保健医療福祉学部（以下「学部」という。）及び保健医療福祉学研究科（以下「研究科」という。）に協力を求めることができる。

- 2 学部及び研究科は、前項の協力の求めがあったときは、諸活動の企画・実施及び

教員の参画等について協力する。

(関連委員会との調整)

第6条 第3条に掲げる諸活動の実施に際し、本部長は、教務委員会はじめ関連する委員会との必要な調整に努めなければならない。

(大学院FD企画部会)

第7条 支援本部に大学院教育の改善活動の企画等を行うため、大学院FD企画部会(以下「部会」という。)を置く。

- 2 部会に部会長を置き、部会長は部会員の互選とする。
- 3 部会における会議結果は、支援本部に報告するものとする。

(補 則)

第8条 この要項に定めるもののほか、支援本部の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 支援本部の事務は、当分の間大学改革推進室が行う。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

多様化する保健医療福祉への県民ニーズに対応するためには、特定の分野において高度な専門性を持つとともに、他の専門職や関係機関と連携・協力しながら最適な保健医療福祉サービスを統合して提供できる人材が必要となっている。

埼玉県立大学大学院では、このような専門性や管理能力の高い保健医療福祉の高度専門職業人を育成する。

高度専門職業人の育成には、保健医療福祉の実務経験や現場で培った問題意識を活用することが有効であり、大学院の基本コンセプトを「リカレント教育に軸足を置いた大学院」とし、社会人が仕事を持ちながら無理なく大学院教育を受けられるよう、多様な教育環境（土曜・夜間開講、長期履修制度、サテライトキャンパス）を整備した。

1 教育環境の整備状況

(1) 土曜・夜間開講

土曜日（9：00～17：50）と平日の夜間（18：00～21：10）に開講する。

(2) 長期履修制度

職業を有しているなどの事情により2年で修了することが困難な学生のため、4年を上限とする長期履修制度を設けた。

(3) サテライトキャンパスの設置

大学所有の看護実習センターを改修し、サテライトキャンパスを設置した。

【住所】さいたま市浦和区北浦和4-9-3（京浜東北線 北浦和駅徒歩3分）

2 入学者選抜の実施状況

入学定員20人に対し、46人の出願者があり、このうち、社会人特別選抜が41名、一般選抜が5名であった。

平成21年2月22日に入学者選抜試験を実施し、合格者を26名（社会人特別選抜24名、一般選抜2名）とした。

これらの結果は、「リカレント教育に軸足を置いた大学院」として保健医療福祉の現場で従事する社会人を受け入れるとした本大学院の設置の趣旨・目的に合致したものと考えている。